

M17c 6-14世紀の古文獻オーロラ・黒点記録サーベイ

玉澤春史，早川尚志，河村聡人，磯部洋明（京都大学）

近代観測が始まる前の太陽活動を知るのは長期変動に加え極端宇宙天気現象を知る上でも重要である．近年の太陽型星におけるスーパーフレアの観測（Maehara et al.(2012)），および年輪の放射性同位元素の測定による突発的な宇宙線の変化の発見（Miyake et al.(2013)）より，近代観測により記録されている最大級の太陽フレアよりも巨大な規模のスーパーフレアが過去に発生していたかどうか議論となっている．こういった近代観測が始まる前の現象を探るためには年輪や氷床コアの放射性同位体元素を調べるのに加え，日本や中国を含む低緯度地域で観測されたオーロラや肉眼黒点の記録を調べ，相補的に利用するのが有用である．一方で，従来は疑問視されていた歴史文獻上に記録されている現象が実際にどの時期に起こったかによって解釈変更の可能性がでてくるなど，極端宇宙天気現象の痕跡は自然科学・人文科学両面において重要な意味を持っている．近年発生したの極端宇宙天気という観点，また文獻のオンラインテキスト化などにより以前にも行われていた文獻における太陽活動の研究をより詳細に見直す必要がでてきた．我々は歴史学と天文学による共同研究として再検討した低緯度オーロラなどのデータをオンラインデータベース化して公開することにより様々な分野の研究者が利用しやすくなるための環境整備を目標としている．今回は現状で調査を進めている7世紀から14世紀の範囲について，中国の文獻を中心に欧州その他の他地域との比較，および年輪の炭素¹⁴変動や氷床コアデータとの比較報告を行う．